

## JLA 第3回研究講演会 パネルディスカッション報告

1. 開催日時 2018年9月22日(土) PM16:00-17:30
2. 場所 工学院大学 5階 B-0563教室
3. パネルディスカッションの概要

タイトル「学生時代のリーダーシップ(教育)は社会で役立つか?」

パネラー 辻田 敏氏 : (同) 総合ストレス対策室  
松本 茂樹氏 : 兵庫大学  
山崎 敦子氏 : 芝浦工業大学 工学部

基調講演者 吉持 達郎氏 : (株) ファシリコ

司会 中山 良一 : 工学院大学



先ず、各パネラーから各自の研究報告が各 15-20 分で行われた。

辻田氏から沖縄県で実施した物流現場における上司と部下関係が「うつ病」発症にどの様に影響するかの事例説明があった(社会現場の事例)。松本氏から大学でのイベントを学生達に運営させて、その活動内でリーダーがどの様な振る舞いをするかの事例、また高校生達がグループで会社模擬経営でのリーダーの事例等の説明があった(教育の事例)。最後に山崎氏から芝浦工大で実施しているグローバル PBL におけるリーダーシップ事例が、日本と海外で異なっている事例等の説明があった。

各プレゼンテーションに引き続いて、会場参加者とパネラーおよび基調講演者間で以下の様なディスカッションが行われた。

- 自分の特性を意識する時期、社会人になってから気付いては遅い、大学時代までの経験で何となく認識し、大学での失敗、成功を通じて確認する(初年次教育などで診断あり)。
- リーダーシップとマネジメントの考え方が未整理である。各自の認識が異なっていることによる意思疎通の不足も生じている(職場内など)。
- グローバルな面では、教員の学生指導も日本と米国では異なっている、日本では型にはまって教えているが、米国では各々独自の教育法で実施しているが、最終的な評価システムがしっかりしているなど。
- アスペルガーの要素は、人それぞれがスペクトラムとして有している、その程度によって顕著になることを認識すべき(特に部下と上司の関係)。
- リーダーシップを意識した事例、仕事を部下達に任せ、方向性のみを示しただけで、仕事がうまく進んだ時、労働組合で意見交換を十分行うために色々な能力を身に付けた時など。
- 産業界はもう既に、人材育成にじっくり取り組むことができにくくなっている、大学と連携して中堅社員に対して人材育成手法の教育を行って欲しい、また大学のスコープを拡大して、学生達が社会で活躍するまで見ていて欲しい。
- 今後の大学教育では、社会で人材育成を行っていた部分を補完できるインターンシップなどを実行すると良い(地域連携、産学協同など)。

最後に司会より、大学で実施されているイベント運営などや PBL は、社会で行ってきている OJT を事前に実施しているとの意識を持って指導することで、良い成果のみがゴールではなく、それに至るプロセスを理解しながら、結果的には失敗しても「学ぶこと」は多々あるとの意識を学生達にも持たせて欲しいとのまとめで、このパネルディスカッションは無事終了した。

—以 上—  
文責 中山良一